

# 合併趣意書

1993年3月21日、大津生活協同組合、湖南消費生活協同組合、滋賀県東部生活協同組合、滋賀県北部生活協同組合は、対等・平等な立場で合併し、四生協の培ってきた活動や経験を発展的に継承し、滋賀県民の豊かなくらしと人間尊重の平和な街づくりをすすめることができる生活協同組合コープしがを創ります。

1970年代、高度成長の歪として出てきた環境汚染、有害食品の氾濫、健康破壊という情勢の中で、わたくしたちはくらしを守るために、自分達の力で生活協同組合を創りました。ゼロからの出発だったわたくしたちの運動も、地域の消費者の参加と、生産者や全国の仲間たちの心強い支援と協力を得ながら一步一步確実に前進してきました。よりよいくらしを求めて結集したわたくしたちの協同の力は、社会をより良い方向に変える原動力となり、有害添加物の排除や生産者と消費者の顔の見える新しい関係づくりを推しすすめてきました。また、地域とともに取り組んできた琵琶湖を守る運動は、全国各地の水環境を守る運動にも大きな影響を与え、先駆的役割を果たしてきました。

しかし、1980年代後半に入ると、生協運動にも大きな転機が訪れました。わたくしたち自身のくらしや価値観が大きく変わるとともに、生協を取り巻く環境も急速に変化してきました。そのような中で、くらしの在り方を再度見つめ直すとともに、生活協同組合の原理・原則を基本としながら、運動や事業の形態を思い切って新しいものに変えていくことが必要となってきました。さらに、人と人との絆を強めていくために「協同の力」をより一層発揮することが求められています。

これらの環境の変化に対応するために、それぞれの地域で取り組んできた生協運動を、わたくしたちは改めて全県的視野に立って考えることが必要となってきました。くらしをより良いものとし、様々な願いを一つひとつ実現していくために、今こそ滋賀県の生協組合員が力を合わせることを求められています。

わたくしたちはさらに多くの仲間づくりをすすめ、学習や活動を通して組合員一人ひとりが自立することをめざします。より多くの県民の参加による協同の力で滋賀県における「消費の組織」を飛躍的に高め、地域の一員としての積極的な政策提言を通して組合員のくらしと県民のくらしの総合的な向上をめざします。

琵琶湖を擁する滋賀県において新たに生まれる生活協同組合コープしがは、地域との調和を図りながら地域社会に寄与します。そして、民主主義を充実させ、21世紀を展望し以下の構想を実現していく決意です。

1. 広範な組合員の参加と生産者とのつながりの強化を通して、安全で安心できる商品づくりをすすめ、組合員の利用結集を高める中で低価格の実現をめざします。また、多様な商品活動を通して、食文化の創造にも取り組みます。
2. 学び合い、教え合い、そして助け合う協同の風土づくりをすすめ、人と人との絆を強めます。そして、一人ひとりの組合員の声を大切にする民主的で人間らしい組織づくりをすすめます。
3. 地域に根づいた多彩で自発的な組合員活動を多くの組合員の参加で推しすすめ、人間にも自然にも優しいくらしを創造します。そして、地域での幅広い協同を通して人間尊重の社会づくりをめざします。
4. 組合員の生活の変化に十分対応し、生協の組織と運動を支えるにふさわしい事業の拡大・発展を確保します。また、経営資源（出資金、人材、施設など）を結集し、事業運営のあらゆる面での効率化・高度化を図り、ゆるぎない経営基盤の構築と安定した経営の継続をめざします。
5. 組合員の自主・自立を基本とした協同組合間提携や他団体との協同・連帯をさらに強化します。また、くらしに関する地球規模での問題の構造的解決に向け、交流を通して国際的な協同・連帯にも積極的に取り組みます。